

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第3区分

【発行日】平成24年10月11日(2012.10.11)

【公開番号】特開2012-69024(P2012-69024A)

【公開日】平成24年4月5日(2012.4.5)

【年通号数】公開・登録公報2012-014

【出願番号】特願2010-214677(P2010-214677)

【国際特許分類】

G 06 F 17/50 (2006.01)

G 06 F 19/00 (2011.01)

【F I】

G 06 F 17/50 6 1 2 H

G 06 F 19/00 1 1 0

【手続補正書】

【提出日】平成24年8月28日(2012.8.28)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

時間項を含む微分方程式を離散化した解析実行モジュールによる過度解析により解析対象の物理量を解析手段によって算出する第1解析を行い、

算出された前記物理量を、第1補正手段において時間高調波次数を用いて補正し、

前記物理量の補正後に、時間項を含む前記微分方程式を離散化した解析実行モジュールによる過度解析により前記解析対象の定常後の物理量を前記解析手段によって算出する第2解析を行うことを特徴とする高速定常場解析方法。

【請求項2】

設定時間幅内に存在する、前記第1解析によって算出された複数の前記物理量を用いて、前記物理量の時間平均量を、時間平均手段によって算出し、

前記第1補正手段による前記物理量の補正が、前記時間平均量を反映した前記時間高調波次数を用いて行われる請求項1に記載の高速定常場解析方法。

【請求項3】

時間項を含む微分方程式を離散化した解析実行モジュールによる過度解析により解析対象の物理量を算出する第1解析を行う解析手段と、

算出された前記物理量を、時間高調波次数を用いて補正する第1補正手段と、

前記物理量の補正後に、時間項を含む前記微分方程式を離散化した解析実行モジュールによる過度解析により前記解析対象の定常後の物理量を算出する第2解析を行う前記解析手段とを備えたことを特徴とする高速定常場解析装置。

【請求項4】

設定時間幅内に存在する、前記第1解析によって算出された複数の前記物理量を用いて、前記物理量の時間平均量を算出する時間平均手段と、

前記物理量の補正を、前記時間平均量を反映した前記時間高調波次数を用いて行う前記第1補正手段とを備えた請求項3に記載の高速定常場解析装置。

【請求項5】

高速定常場解析を行うためにコンピュータを、

時間項を含む微分方程式を離散化した解析実行モジュールによる過度解析により解析対

象の物理量を算出する第1解析を行う解析手段、

算出された前記物理量を、時間高調波次数を用いて補正する第1補正手段、および

前記物理量の補正後に、時間項を含む前記微分方程式を離散化した解析実行モジュールによる前記過度解析により解析対象の定常後の物理量を算出する第2解析を行う前記解析手段、

として機能させるための定常場高速解析プログラム。

【請求項6】

高速定常場解析を行うためにコンピュータを、

設定時間幅内に存在する、前記第1解析によって算出された複数の前記物理量を用いて、前記物理量の時間平均量を算出する時間平均手段、および

前記物理量の補正を、前記時間平均量を反映した前記時間高調波次数を用いて行う前記第1補正手段、

として機能させるための請求項5に記載の定常場高速解析プログラム。

【請求項7】

高速定常場解析を行うためにコンピュータを、

時間項を含む微分方程式を離散化した解析実行モジュールによる過度解析により解析対象の物理量を算出する第1解析を行う解析手段、

算出された前記物理量を、時間高調波次数を用いて補正する第1補正手段、および

前記物理量の補正後に、時間項を含む前記微分方程式を離散化した解析実行モジュールによる過度解析により前記解析対象の定常後の物理量を算出する第2解析を行う前記解析手段、

として機能させるための定常場高速解析プログラムを記録したコンピュータ読み取り可能な記録媒体。

【請求項8】

高速定常場解析を行うためにコンピュータを、

設定時間幅内に存在する、前記第1解析によって算出された複数の前記物理量を用いて、前記物理量の時間平均量を算出する時間平均手段、および

前記物理量の補正を、前記時間平均量を反映した前記時間高調波次数を用いて行う前記第1補正手段、

として機能させるための定常場高速解析プログラムを記録した請求項7に記載のコンピュータ読み取り可能な記録媒体。